

エアバッグのリコール未改修車両を車検で通さない措置の開始について

国土交通省から、エアバッグの未改修車両を車検で通さない措置の開始について、下記のとおりプレスリリースされましたので、お知らせいたします。



エアバッグのリコール未改修車両を車検で通さない措置を開始します。

タカタ製エアバッグのリコール改修を促進するため、異常破裂する危険性が高い未改修車両（自動車メーカー9社、97車種、約130万台（10月末時点））については、平成30年5月より、車検で通さない措置を講じることとします。

本措置の対象車両のユーザーの皆様は、車検の有効期間を待つことなく、一刻も早く改修を行って頂くようお願いします。

1. 背景・目的

タカタ製エアバッグは、ガス発生装置（インフレーター）が異常破裂し、金属片が飛散する不具合が発生しているため、平成21年以降リコールを実施しているところです。

これまで、未改修車に対し車検時に警告文の交付を行う等の改修促進の取組を進めていますが、本年10月の国内の改修率は83.2%であり、なお約320万台の未改修車があること、異常破裂による死者が全世界で少なくとも18人を数え、一刻も早い改修が必要であること等を踏まえ、これまでの取組に加え、新たに、異常破裂する危険性が高い未改修車については、車検で通さない措置を講じます。

2. 未改修車両を車検で通さない措置の概要

（1）対象範囲（別紙2）

お持ちの車が今回の措置の対象となるかの確認は、以下の検索システムを活用してご確認頂くか、別紙3に掲げる自動車メーカーにお問い合わせ下さい。

<https://www.jaspa.or.jp/portals/recallsearch/index.html>

（2）措置の方法

① ユーザーやディーラー以外の整備工場は、検索システムを活用し、車検を受けようとする車両が措置対象未改修かどうかを確認します。該当する場合には、ディーラー等にて改修を行った上で交付される改善措置済証を運輸支局等に提出して車検を受けることになります。

② 車検申請を受けた運輸支局等においては、自動車登録検査業務電子情報処理システム等を活用して、措置対象未改修車両の場合は車検を通さないこととします。

（3）その他

本措置の導入によるユーザーや整備工場の負担の軽減を図るため、自動車メーカーが適切に対応するよう指導して参ります。更に、自動車メーカーによる効果的なダイレクトメール送付など、リコール改修の一層の促進を図って参ります。

【お問い合わせ先】

自動車局審査・リコール課 今村、島川

TEL:03-5253-8111（内線:42363）、夜間直通 03-5253-8597

対 象 範 囲

平成28年4月以前にリコール届出されているものであって、異常破裂する危険性が高い特定のインフレーターを使用したエアバッグを搭載した、次のリコールの未改修車を対象範囲とします(約130万台(10月末時点))。

- ① 原因が特定されたリコール
- ② 予防的リコールのうち、国内で異常破裂したインフレーターと同じタイプを使用した、次のエアバッグを搭載した車両に係るリコール
 運転席：平成22年以前の仕様のSDIタイプのインフレーターを使用したエアバッグ
 助手席：平成22年以前の仕様のSPIタイプのインフレーターを使用したエアバッグ

[いすゞ自動車株式会社]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
コモ	平成13年 6月 ～ 平成20年 12月

[株式会社 SUBARU]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
レガシィ	平成15年 4月 ～ 平成16年 2月
インプレッサ	平成16年 1月 ～ 平成19年 4月

[ダイハツ工業株式会社]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
ミラ	平成14年 12月 ～ 平成19年 11月
エッセ	平成17年 11月 ～ 平成23年 3月
ハイゼット	平成16年 11月 ～ 平成22年 5月
ハイゼット デッキバン	平成17年 1月 ～ 平成19年 11月

[トヨタ自動車株式会社]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
アベンシス/アベンシスワゴン	平成15年 9月 ～ 平成20年 5月
アルファード G/V/ハイブリッド	平成14年 5月 ～ 平成20年 3月
アレックス	平成12年 11月 ～ 平成18年 10月
イプサム	平成13年 4月 ～ 平成20年 12月
ヴィッツ	平成14年 12月 ～ 平成20年 12月
ヴェルッサ	平成12年 11月 ～ 平成16年 10月
ヴォクシー	平成13年 11月 ～ 平成19年 5月
ヴォルツ	平成14年 5月 ～ 平成16年 3月

オーハ	平成14年 5月 ～ 平成17年 4月
ガイア	平成13年 4月 ～ 平成16年 8月
カロラ	平成12年 7月 ～ 平成18年 10月
カロラフィールダー	平成12年 7月 ～ 平成18年 9月
カロラランクス	平成12年 8月 ～ 平成18年 10月
サクシード	平成14年 6月 ～ 平成20年 12月
ソアラ	平成13年 4月 ～ 平成17年 7月
ノア	平成13年 11月 ～ 平成19年 5月
プレビス	平成13年 5月 ～ 平成19年 6月
プロボックス	平成14年 6月 ～ 平成20年 12月
ベルタ	平成17年 11月 ～ 平成20年 12月
マークII	平成12年 9月 ～ 平成16年 10月
マークIIプリット	平成13年 12月 ～ 平成19年 6月
RAV4 J/L	平成15年 7月 ～ 平成17年 10月
WILL サイファ	平成14年 9月 ～ 平成17年 7月
WILL VS	平成13年 4月 ～ 平成16年 4月

[レクサス(トヨタ自動車株式会社)]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
SC430	平成17年 8月 ～ 平成19年 12月

[日産自動車株式会社]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
キューブ(Z10型)	平成12年 8月 ～ 平成14年 8月
セフィーロ	平成13年 1月 ～ 平成14年 12月
リバティ	平成13年 4月 ～ 平成16年 10月
ブルーバードシルフィ	平成13年 4月 ～ 平成17年 12月
キャラバン	平成13年 5月 ～ 平成20年 12月
エクストレイル	平成12年 10月 ～ 平成19年 6月
ティアナ	平成14年 11月 ～ 平成20年 12月
ダットサン	平成13年 7月 ～ 平成14年 8月
サファリ	平成14年 1月 ～ 平成19年 6月
プレサージュ	平成15年 7月 ～ 平成20年 12月
フーガ	平成16年 10月 ～ 平成20年 12月
キューブ(Z12型)	平成20年 11月 ～ 平成24年 2月
マーチ	平成22年 6月 ～ 平成24年 3月
パネット	平成16年 3月 ～ 平成23年 3月

[ピー・エム・ダブリュ株式会社]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
316ti	平成14年 1月 ～ 平成14年 11月
318ti	

FCXクラリティ	平成20年 5月 ~ 平成22年 8月
MDX	平成15年 2月 ~ 平成18年 1月

[マツダ株式会社]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
アテンザ	平成14年 3月 ~ 平成19年 11月
RX-8	平成15年 2月 ~ 平成15年 6月
ボンゴ	平成16年 3月 ~ 平成23年 3月
ボンゴブローニイ	平成16年 3月 ~ 平成22年 7月
タイタン	平成16年 2月 ~ 平成22年 7月

[三菱自動車工業株式会社]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
ランサー	平成15年 12月 ~ 平成20年 12月
アイ	平成17年 12月 ~ 平成20年 12月
トライトン	平成18年 8月 ~ 平成22年 4月
デリカ(商用車)	平成16年 3月 ~ 平成23年 3月

なお、現在、タカタ製エアバッグのリコールを届出している以下の自動車メーカー等においては、今回の措置の対象となる車両はありません。

- アウディジャパン株式会社
- FCA ジャパン株式会社
- ジャガー・ランドローバー・ジャパン株式会社
- ニコルレーシングジャパン合同会社
- McLaren Automotive Asia Pte Ltd
- 日野自動車株式会社
- フェラーリ・ジャパン株式会社
- フォード・ジャパン・リミテッド
- フォルクスワーゲングループジャパン株式会社
- プジョー・シトロエン・ジャポン株式会社
- メルセデス・ベンツ日本株式会社
- UDTラックス株式会社

318i	平成13年 12月 ~ 平成14年 11月
318Ci	平成14年 2月 ~ 平成14年 12月
318i ツーリング	平成14年 1月 ~ 平成14年 12月
320i	平成14年 1月 ~ 平成15年 2月
325i	平成14年 1月 ~ 平成14年 11月
330i	平成14年 1月 ~ 平成14年 12月
330Ci	平成14年 2月 ~ 平成14年 12月
330Ci カプリオレ	平成13年 10月 ~ 平成14年 12月
M3	平成14年 2月 ~ 平成14年 12月

[本田技研工業株式会社]

通称名	対象となる車両の製造年月の範囲
アコード	平成14年 10月 ~ 平成20年 3月
アコードワゴン	平成14年 10月 ~ 平成19年 12月
インサイト	平成20年 12月 ~ 平成23年 3月
インスパイア/セイバー	平成13年 3月 ~ 平成14年 11月
エアウェイブ	平成17年 3月 ~ 平成22年 8月
エディックス	平成16年 6月 ~ 平成21年 8月
エリシオン	平成16年 4月 ~ 平成23年 3月
エリシオン プレステージ	平成15年 2月 ~ 平成17年 9月
エレメント	平成19年 2月 ~ 平成22年 8月
クロスロード	平成14年 1月 ~ 平成19年 6月
ザッツ	平成17年 8月 ~ 平成22年 8月
シビック	平成13年 2月 ~ 平成16年 11月
シビック GX	平成13年 11月 ~ 平成22年 12月
シビック ハイブリッド	平成12年 8月 ~ 平成17年 7月
シビック フェリオ	平成17年 5月 ~ 平成21年 9月
ステップワゴン	平成12年 8月 ~ 平成23年 3月
ステップワゴン スパーダ	平成18年 2月 ~ 平成23年 3月
ストリーム	平成18年 3月 ~ 平成22年 8月
ゼスト/ゼスト スパーク	平成13年 6月 ~ 平成23年 3月
パートナー	平成13年 6月 ~ 平成23年 3月
フィット	平成13年 6月 ~ 平成23年 3月
フィット アリア	平成13年 6月 ~ 平成23年 3月
フィット シャトル	平成13年 6月 ~ 平成23年 3月
フリード	平成20年 5月 ~ 平成20年 12月
モビリオ	平成13年 11月 ~ 平成20年 4月
モビリオ スパイク	平成14年 9月 ~ 平成20年 4月
ラグレイト	平成13年 10月 ~ 平成16年 2月
レジェンド	平成16年 9月 ~ 平成23年 2月
GR-V	平成13年 9月 ~ 平成23年 3月

自動車メーカー問い合わせ先

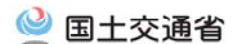
自動車メーカー名(五十音順)	お問い合わせ先 ※1	ウェブサイトURL ※2
アウディジャパン株式会社	0120-598-119	http://www.audi.co.jp/jp/web/ja/service_accessory.html#page=/jp/web/ja/service_accessory/info_top/recall.html
いすゞ自動車株式会社	0120-119-113	http://www.isuzu.co.jp/recall/
FCAジャパン株式会社	0120-712-812	http://fcagroupprecallinfo.kir.jp/Rinfo/search/index.php
株式会社 SUBARU	0120-412-215	http://recall.subaru.co.jp/lqsb/
ダイハツ工業株式会社	0800-500-0182	https://www.daihatsu.co.jp/info/recall/search/recall_search.php
トヨタ自動車株式会社【トヨタ】	0800-700-7700	http://www.toyota.co.jp/recall-search/dc/search
【LEXUS】	0800-500-5577	http://lexus.jp/recall/
ニコル・レーシング・ジャパン合同会社	0120-699-250	http://alpina.co.jp/services/recall/recall-information/
日産自動車株式会社	0120-941-232	http://www.nissan.co.jp/REGALL/search.html
ビー・エム・ダブリュー株式会社	0120-269-437	http://bmw-japan.jp/after-service/recall_search.html
日野自動車株式会社	0120-106-558	http://www.hino.co.jp/j/service/recall/index.php
フォルクスワーゲングループジャパン株式会社	0120-509-300	http://web.volkswagen.co.jp/afterservice/etc/recall.html
プジョー・シトロエン・ジャポン株式会社	0120-55-4106	http://www.citroen.jp/services/recall/
本田技研工業株式会社	0120-112-010	http://recallsearch4.honda.co.jp/sqs/r001/R00101.do?fn=link_disp
マツダ株式会社	0120-386-919	http://www2.mazda.co.jp/service/recall/
三菱自動車工業株式会社	0120-324-860	http://recall.mitsubishi-motors.co.jp/Recall/jspforward.do?page=/searchrecallstatus.jsp&prefix=
メルセデス・ベンツ日本株式会社	0120-086-880	http://www.mercedes-benz.jp/my-service/recall/search/index.html
UDトラックス株式会社	0120-67-2301	https://www.udtrucks.com/ja-jp/service-and-parts/recall-info/recalls/recalls/2016/20160630

網掛けは、今回、車検で通さない措置の対象となる自動車メーカーになります。

※1 お持ちの車が今回の措置の対象になるかどうかの確認は、検索システムを活用してご確認頂くか、各自動車メーカー窓口までご相談ください。

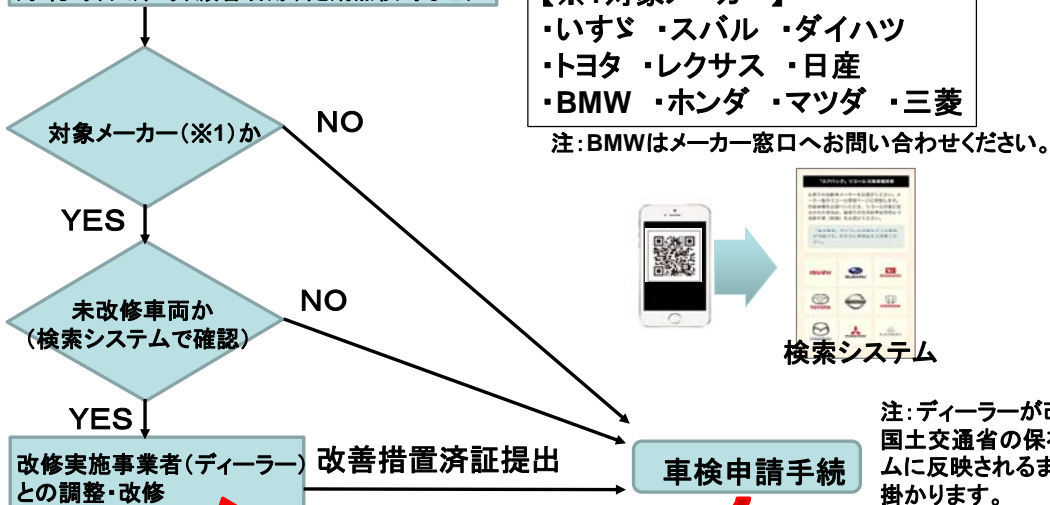
※2 各自動車メーカーのウェブサイト又は検索システムでは、お持ちの車のリコール届出状況等について確認できます。「車台番号」が必要になりますので、お手元に車検証をご用意ください。

整備事業者の皆様に必ず行っていただきたい事項



- ・ユーザーから入庫の連絡を受けたときは必ず「メーカー名」と「車台番号」を確認し、未改修車両かどうか確認してください。
- ・未改修車両の入庫が決定したときは、すみやかにディーラー等に連絡のうえ、改修のスケジュールや段取りを調整してください。

「メーカー名」「車台番号」の確認
(予約時、入庫時、顧客名簿、定期点検時など)



未改修車両であるかを検索システム等で事前に確認しないと、有効期間の更新手続きが行われないおそれがあります。



6

スマートフォン用検索アプリ

1. アプリのダウンロード

App Store 又は Google playでアプリケーションをダウンロード
(以下のQRコードリーダーで読み取り、アプリストアにログインしてダウンロード)



2. アプリの使用方法

方法①
「メーカー名」と「車台番号」を入力して検索

又は

方法②
「メーカー名」を入力した上で
車検証のQRコードを読み取り

検索結果へ



7

すれ違い用前照灯(ロービーム)の 計測手法を見直し、 平成30年6月1日から適用します。

平成27年9月1日より、ヘッドライトテストによる審査は原則としてすれ違い用前照灯(ロービーム)を計測することにより行っていますが、当面の対応として、審査機器による計測が困難な一部の自動車(以下「計測困難な自動車」という。)に対して走行用前照灯(ハイビーム)による審査を実施しています。

今般、すれ違い用前照灯による審査の全面施行に向けた前段階として計測手法及び計測困難な自動車を見直すこととします。

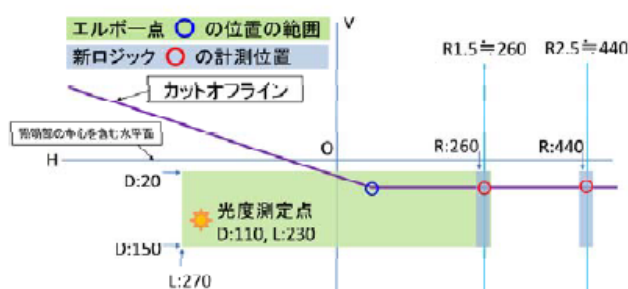
【概要】

◆計測手法及び計測困難な自動車を次のとおりとします。

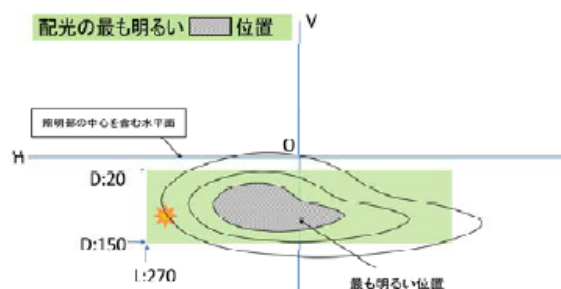
- (1) すれ違い用前照灯の計測において、必ず右側及び左側の両方を計測します。
- (2) (1)による計測の結果、照射光線が他の交通を妨げないものとして、次の①又は②に該当するものに限り「計測困難な自動車」とみなして走行用前照灯を計測することができます。

(注：すれ違い用前照灯の全てが次に該当しない場合は、走行用前照灯の計測は行いません。)

- ① エルボー点の位置(図中「○」)又はすれ違い用前照灯の照明部の中心より右方 1.50° (260mm)及び右方 2.50° (440mm)の鉛直線とカットオフラインが交わる2つの位置(新ロジックの計測位置：図中「○」)が当該照明部の中心を含む水平面より下方にあるもの。



- ② 配光の最も明るい位置が照明部の中心を含む水平面より下方にあるもの。(試験機が測定したカットオフラインではエルボー点を判断できない場合。)



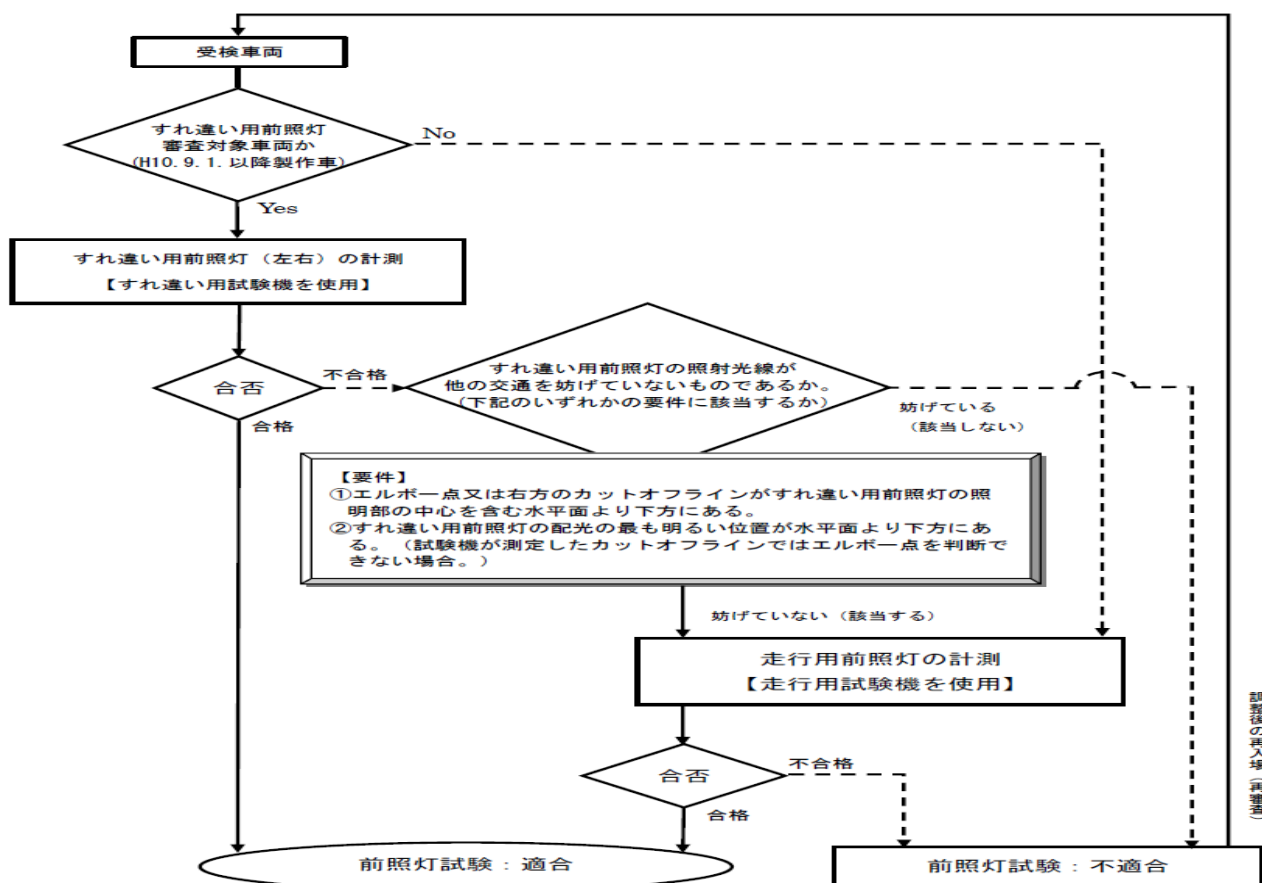
◆対象自動車

平成10年9月1日以降に製作された自動車(トレーラ、二輪車、側車付二輪車、大型特殊車を除く。)

※対象自動車は、すれ違い用前照灯の適切な調整にご協力願います。

ご不明な点についてはお問い合わせください。

検査コースにおける前照灯試験機を用いた審査フロー



機器定期点検のお知らせ

受検者の皆様には日頃、検査業務にご協力いただきありがとうございます。

この度、検査機器の定期点検に伴い**以下の日程で検査コースを閉鎖**いたします。

ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【コース閉鎖日程】

1月16日（火）

午前：5コース

午後：3コース

2月15日（木）

終日：2コース

※4コース・2輪コースについては後日お知らせいたします。

独立行政法人自動車技術総合機構
関東検査部山梨事務所

ホイール・ボルト折損等による大型自動車等の車輪脱落事故防止について

国土交通省から、ホイール・ボルト折損等による大型自動車等の車輪脱落事故防止について、下記のとおりプレスリリースされましたので、お知らせいたします。

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

平成 29 年 11 月 14 日

自動車局 整備課

ホイール・ボルト折損等による大型自動車等の車輪脱落事故防止について

大型自動車の車輪脱落事故防止のため、本日、関係団体に対してタイヤ交換時の適切な作業や日頃の点検における確実な確認を徹底するよう指示しました。

1. 事故発生状況

平成 28 年度の大型自動車（車両総重量 8 トン以上のトラック又は乗車定員 30 人以上のバス）のホイール・ボルト折損等による車輪脱落事故の発生件数は 56 件（うち人身事故は 3 件）で、前年度に比べ 15 件増加しています。特に、11 月から 3 月に 36 件（全体の約 64%）発生しており、大型自動車の車輪脱落事故は冬期に発生する傾向にあります。

2. 車輪脱落事故防止に係る関係団体への要請

国土交通省では、本日、関係団体に対して大型自動車等の車輪脱落を防ぐため、タイヤ交換及び日頃の点検において以下の 4 点を徹底するよう要請しました。

- ① 規定のトルクでの確実な締め付け
- ② タイヤ交換後、50～100km 走行後の増し締め
- ③ 日常（運行前）点検での確認
- ④ 専用ボルト及びナットの使用

なお、上記については、（一社）日本自動車工業会においてチラシ（別紙 3）等により自動車使用者等に対して周知しております。

<添付資料>

- 別紙 1 平成 28 年度大型自動車のホイール・ボルト折損等による車輪脱落事故発生状況
- 別紙 2 関係団体あて要請文
- 別紙 3 大型自動車の車輪脱落事故防止のための啓発用チラシ（（一社）日本自動車工業会作成）

<問い合わせ先>

自動車局 整備課 平川、下窪
TEL:03-5253-8111（内線:42412）
直通:03-5253-8599
FAX:03-5253-1639

大型車の
車輪脱落を防ごう!
合言葉は

お ち ない

徹底しよう!大型車の車輪脱落を防ぐ4つのルール

お きまりのトルクで
きちんと締め付けて

規定のトルクで確実に締め付けを

締め付け方式には、球面座で締め付けるJIS方式、
平面座で締め付けるISO方式があります。
規定のトルクで確実に締め付けてください。

※ホイールナットの締め付け不足、締め忘れ防止のため、ナット締め付
作業時(終了後)、「規定の締め付けトルク」で確実に締め付けたことを
確認するよう、お願いします。



規定の締め付けトルク



Mr.整備くん

ち ゃんと増し締め
交換後

50~100km走行後に、しっかり増し締めを

締め付け後は初期なじみによって
ホイールナットの締め付け力が低下。
50~100km走行後を目安に、
増し締めしてください。

ねじの締め付け方向を確かめて締め付けます。



JIS方式(球面座)ダブルタイヤの場合

●アウターナット
を緩めます。



●インナーナット
を締め付けます。



●アウターナット
を締め付けます。

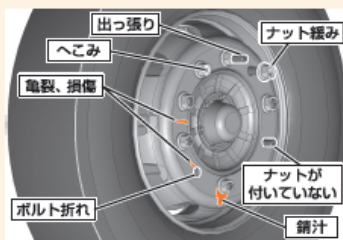


※この図は右側タイヤの場合です。

な っと見て
ボルト触って
さあ出発!

一日一回の日常点検を

運行前にホイールボルト、ナットを目で見てさわって点検
してください。異常を発見したらすぐ整備工場へ。



い や待てよ?
ボルトとナットは
適正か?

ホイールに適合したボルト、ナットを

スチールホイール、アルミホイールの履き替えには、それぞれ
適合するホイールボルト、ナットの使用が必要です。必ずご確認
ください。

※JIS方式では、アルミホイール(スチール)用のホイールボルト、ナットで、スチールホイール
(アルミ)は履けません! ISO方式では、スチールホイール用ホイールボルトで、アルミホイールは
履けません!



詳しい情報は日本自動車工業会ホームページへ
<http://www.jama.or.jp/user/>



国土交通省 自動車点検整備推進協議会 大型車車輪脱落防止連絡会
日本自動車工業会 (いすゞ自動車 日野自動車 三菱ふそうトラック・バス UDトラック)
全日本トラック協会 日本バス協会 全国自家用自動車協会 日本自動車整備振興会連合会
日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会
全国石油商業組合連合会 日本自動車車体工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会
日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会



タイヤ交換などホイール脱着時の不適切な取扱による 車輪脱落事故が発生しています!

タイヤ交換作業にあたっては、【車載の「取扱説明書」】や【本紙表面に記載の「車輪脱落を防ぐ4つのポイント」】、【下記の「その他、ホイールナット締付け時の注意点」】などを参照の上、正しい取扱い（交換作業）をお願いします。

※ホイールナットの締付けは、必ず「規定の締付けトルク」で行ってください。
※ホイール取付方法には、JIS方式とISO方式の2種類があります。それぞれ正しい取扱い方法をご確認いただき、適切なタイヤ交換作業の実施をお願いします。



ホイールナットの締付け不足。アルミホイール、スチールホイールの取扱いミス（誤組み付け、部品の誤組み）

その他、ホイールナット締付け時の注意点

ホイールボルト、ナットの潤滑について



JIS方式 ホイールボルト、ナットのねじ部と座面部（球面座）にエンジンオイルなど指定の潤滑剤を薄く塗布します。

ISO方式 ホイールボルト、ナットのねじ部と、ナットとワッシャーとのすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑剤を薄く塗布します。ナットの座面（ディスクホイールとの当たり面）には塗布しないでください。

※ホイールの固着防止のため、ハブのはめ合い部（インロー部）にグリースを薄く塗布します。

ディスクホイール、ハブ、ホイールボルト、ナットの清掃について



ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、ハブ取付面（ISO方式では、ハブのはめ合い部も）、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、泥、追加塗装などを取り除きます。

ホイールナット締付け時の
注意点だよ!



④ ホイール締付け方式

ホイールの締付け方式には、球面座で締付ける JIS 方式と、平面座で締付ける ISO 方式があります。また「排出ガス規制・ポスト新長期規制適合」大型車から、左右輪・右ねじとする「新・ISO 方式」を採用しました。

ホイール締付け方式	ISO方式(8穴、10穴)	JIS方式(6穴、8穴)
ホイールサイズとボルト本数(PCD)	19.5インチ: 8本(PCD275mm) 22.5インチ: 10本(PCD335mm)	17.5(19.5の一部)インチ: 6本(PCD222.25mm) 19.5、22.5インチ: 8本(PCD285mm)
ボルトサイズ ねじの方向	M22 左右輪: 右ねじ(新・ISO方式) 右輪: 右ねじ 左輪: 左ねじ(従来ISO方式)	前輪 M24(または20) 後輪 M20、M30 右輪: 右ねじ 左輪: 左ねじ
ホイールナット 使用ソケット	平面座(ワッシャー付き)・1種類 33mm(従来ISO方式の一部は32mm)	球面座・6種類 41mm/21mm
ダブルタイヤ	一つのナットで共締め	インナー、アウターナットそれぞれで締付け
ホイールのセンタリング	ハブインロー	ホイール球面座
アルミホイールの履き替え	ボルト交換	ボルトおよびナット交換
後輪ダブルタイヤの 締付け構造		

詳しい情報は、
日本自動車工業会HPをご覧ください。

新・ISO方式ホイール取扱いガイド
中・大型トラック・バスのホイールナット締付けトルク
車輪脱落防止のための正しい車輪の取扱いについて

▶ http://www.jama.or.jp/user/pdf/iso_wheel_100203.pdf
▶ <http://www.jama.or.jp/user/pdf/wheelnut.pdf>
▶ http://www.jama.or.jp/user/pdf/fall_off_wheel2007.pdf

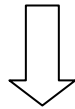
自動車損害賠償保障法施行規則の一部を改正する省令の施行に伴う事務の取扱いについて

国土交通省から下記のとおり、損害保険会社の社名変更に伴い、「自動車損害賠償保障法施行規則の一部を改正する省令の施行に伴う事務の取扱いについて」の一部を改正する旨の通達がありましたので、お知らせいたします。

○平成30年1月1日から合併により変更される保険会社名及び略称について

会社合併による変更

「富士火災海上保険（株）」と「A I U損害保険（株）」の合併



新会社名

略称

「A I G損害保険（株）」 A I G

全国の整備相談所に寄せられた整備相談事例 Vol. 72

【内容】 今後の対応について相談したい

- ・車名 : トラック 登録年月 : 平成24年9月 走行距離 : 100,000 km
- ・相談日 : 平成27年8月26日

平成28年8月17日に車検整備にて入庫し、指定整備実施。納車後数日して、ABS警告灯点灯したため、ユーザーはディーラー工場へ入庫した。

指定整備をしたKモータースから、今後の展開によっては相談窓口頼る旨の電話が入った。

【対応】

相談窓口より、故障車が入庫したディーラー工場と修理を行ったKモータース双方に確認を行った。結果、指定整備時、検査係の作業指示により作業班がフロントハブベアリングのシール交換を実施。その際、強く叩き過ぎハブに僅かであるが傷が入ったため、センサーが読み取ってしまい警告灯が点灯したのではないかと認識を持つに至った。

シールを嵌める際のハンマー操作についてKモータースに確認を行ったが、納車時には警告灯が点灯しておらず、通常どおりの作業をしたままでの納得できないとの返事があった。

相談窓口より自動車整備業賠償共済保険引受会社に相談したところ、Kモータースは保険に加入しており、PL対象にもなることから、Kモータースに賠償共済保険の事故手続きを勧め、本件の終了となった。

OEM 車両と供給元メーカー車両の対照表掲載のご案内

OEM 車について、FAINES では基本的に販売メーカー側の整備マニュアル情報が未掲載となっています。

そのため、提供元（OEM 元）の車両情報を参考にしたい場合 OEM 車両と供給元メーカー車両の対照表を作成しましたので、下記をご参照の上、提供などに活用いただける元メーカーの整備マニュアル情報を閲覧する際などにご確認ください。

なお、閲覧時はご参考にとどめ、整備数値等具体的な情報については、販売元の系列ディーラー等へお問合せ頂きますようお願いいたします。

The image displays three screenshots of the FAINES website interface, illustrating the process to find OEM vehicle comparison tables.

Top Screenshot: The main navigation bar includes a link for "よくある質問と回答 (FAQ)" (Frequently Asked Questions and Answers), which is highlighted with a red box and an arrow pointing to a callout box that says "『よくある質問と回答 (FAQ)』をクリック" (Click on 'Frequently Asked Questions and Answers').

Middle Screenshot: The "よくある質問と回答 (FAQ)" page is shown. It features a search bar with "カテゴリ" (Category) and "タイトル" (Title) fields, and a "検索" (Search) button. Below the search bar, a list of search results is displayed. One result, "OEM車の整備マニュアル情報が掲載されていないものが多い..." (Many OEM vehicle maintenance manual information items are not posted...), is highlighted with a red box and an arrow pointing to a callout box that says "『OEM車の整備マニュアル情報が掲載されていないものが多い...』をクリック" (Click on 'Many OEM vehicle maintenance manual information items are not posted...').

Bottom Screenshot: The "OEM車の整備マニュアル情報が掲載されていないものが多い..." page is shown. It contains a list of search results. One result, "OEM車両対照表 (FAINES版)" (OEM Vehicle Comparison Table (FAINES Version)), is highlighted with a red box and an arrow pointing to a callout box that says "『OEM車両対照表(FAINES版)』をクリックして頂くとPDFで表示されます。" (Click on 'OEM Vehicle Comparison Table (FAINES Version)' and it will be displayed as a PDF).